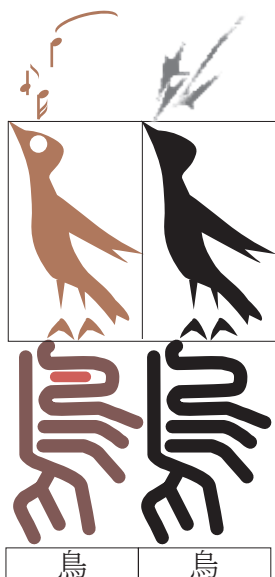


多摩の我が住まいから直視できる街路樹に、いつからか特徴ある声のカラスの一家が棲みついて気になっている。

鳥のかわいさはその目にあるといってもよいほど、目はポイント。ところが、「鳥」類でも、顔に目が無いような容姿から「鳥」という文字を与えられてしまったカラスは気の毒に決定的な魅力を欠いてしまっていることになる。

さらにまた、さえずりも鳥類の大事な魅力だが、これも美声といえない。というように、カラスはかわいさとは真逆の、喪服を纏って不吉を運んでくる輩に思えて、どうも好きになれない。いや、好きでなかった。

子カラスの恩返し



ご近所の、そのカラスの一家が美声でない上にかかなりのしわがれで、春から夏にかけてここ何シーズンか、ずっと同じようなしわがれを聴いてきた。そして新たに加わった子供も同じような声で、どうやら血統のようである。

そんなことで、好きになれなかったカラスが身近になった。気になると、観察が進み、興味が増す。

そこでよく観ると、家族仲がとても良く、街路樹脇の電線に旦那と女房らしき二羽、その傍らに親をしのぐほどに成長した子供がじっと静かに佇んでいたりする。時に、片方の親がすつと電線を離れて地面に降り立ち、何やらついばんで戻って来て子供に与えたりする。余計な声を発することはなく、その様子が優しくてほほえましい。

親が子に注ぐ愛情の景色である。

と黙って眺めている訳であるが、さらにこの観察を続けてみようと思

っているのには実は興味深い動機がある。

カラスには高度な知恵があることで一般的に知られているが、ここでびっくりするのは、何と親に恩返ししてから完全巣立ちするという噂を聞いたのだ。その恩返し、子供が自ら採餌し親に与えるという。

さらにまた驚くべき噂を聞いた。葬式に似た行為があるというのだ！死んだ身内を囲んで声をあげるといふ。

まさか！そんな話ある訳ないだろう。いや、冗談から生まれた噂に過ぎないとは思っている。しかしカラスはたかが鳥などと片付けられない知恵を示すことで知られる。そうした想像までしてしまうほど賢い？いや狡猾？なのだ。

いじめた人間に対する報復行動や固い実を取り出すのに走行する車を活用したり、驚くべきはインソップ寓話にある「カラスと水差し」（水差しの中にある水に浮く食べ物を取り出すのに石をくわえて投げ入れ水かさを増やして捕食する）のような霊長類に匹敵する問題解決能力を發揮することもあるらしい。またある研究者が人間と知恵比べさせたという話もある。

集団行動では、集会のような様子が散見されたり、大型の敵に対して二匹が前後でつきながら挟撃したり、大きな獲物の末期状態を知ると群れてじつと機会をうかがったりするのはよく知られた話で、僕も酒匂川で集会しているようなシーンとか、鳶を挟撃しているところを記憶している。

ひよつとすると、生存能力は人間の上をゆく？などと思ってしまう。さて僕が得た噂の件、子供の恩返しや葬式は果たして、あるのだろうか？

ということ、少なくとも子供の恩返しは、腰を落着けてこの眼で観察しようと思っている。ところがこのところ彼等家族を見かけず、どうやら巣立ちの様子をウォッチする機会を失ったらしい。来年新たに街路樹に葉が密生する六月ころ、あの夫婦が戻ってくるのを待とうかと思うが、戻ってくれるかいささか心配ではある。今は空巣（カラス）にならないよう祈っている。